十年十月の開港を目指して建設工事が進められている大館能代空港。大館能代空港は地域活性化型空港と位置付けられることから、空港を核とした県北地域全体の振興策を研究するため、六年八月には「大館能代空港利活用研究会」が設置されました。そして農林漁業・商工業・観光の三研究部会において、より有効な空港活用策の研究を進めてきたところです。このほど、各部会の研究結果がまとまりました。以下は研究報告の抜粋です。

農林漁業部門

農　業

農業は県北地域の基幹産業であり、農業の振興は地域の課題として常に意識されています。そのような中で開設される空港が、農業に与える好影響として期待されているのは農産物の付加価値を高める、いわゆる「フライト農業」の可能性です。ただし、フライト農業は一方で、他産地から県北市場への農産物の流入をも促進するであろうことを忘れてはなりません。

フライト農業によるメリットが生かせる農産物は、全国の事例や市場関係者の意見などから、以下のようにまとめられます。

・農産物の空輸は、空輸コストが販売価格の10％内外であることが販売面からの目安。農産物の航空運賃は、割引制度を利用しても1キログラム当たり100円前後であることから、空輸しても採算がとれる目安は1キログラム当たり1000円程度の品目。

・鮮度の保持が重要視される品目。

・市場間の価格差により、空輸コストをかけても県外への出荷の方が収益性の高い品目。

・作型等を工夫して端境期の出荷とし、少量でも高収益性が期待できる品目。

・少量生産のため、ほかの輸送手段では出荷できない品目。

・産地の規模拡大と安定生産体制を確立するため、県外での販路拡大を図る必要がある品目。

今後は、これらの条件をクリアできる地元産品の統一生産、統一出荷に努める必要があります。

林　業

木材や木製品の多くは、空港が近くにできたとしても、空輸が行われるようになるとは考えにくいものです。しかし、空港ができることによってこの地を訪れる人が増えれば、それだけ需要拡大につながりますし、製品のニーズやデザインについての新しい情報が流れ込んできます。また、最新情報を得るために、地域の人々が東京や外国へと足を伸ばすことも容易になるものと予想されます。

このような、空港を介して集まる有用な情報を把握し各市町村へ伝えるため、空港周辺に市町村の出先機関や工房、展示場などを設置する必要があります。また、各地域で新しい林産品、林産加工品の開発を積極的に推進することも大切です。

特用林産物（キノコ等）の多くは、鮮度の保持が重要であり、空輸が可能になることに伴う市場の拡大に期待が持てます。また、空港を介して県北地域を訪れる人々が求めるおみやげ品や、地域の人々が外部へ旅行する際のおみやげ品としての特用林産物の需要も、相当大きくなることが予想されます。そのため、空港ターミナル内の物産マートや各市町村での販売体制の強化を図ることが、今後の課題といえます。

漁　業

県北の内水面漁業・海面漁業にとって、空輸を可能とする空港の開設は、鮮度保持上の優位性という点から大きな期待がかかるものです。また、空輸が可能になることにより、鮮魚・活魚の流通が従来より頻繁に行われるようになることが予想されます。そこで、生産体制や市場での流通体制の強化が今後の課題となります。

水産物の予冷輸送が常識化しつ